

## 令和3年度第1回福岡市スポーツ推進審議会 議事録

<開催日時> 令和3年11月30日(火) 10:00~11:35

<開催場所> アクロス福岡 607会議室

<出席委員> 13名(欠席3名)

上和田 茂 会長、原田 清子 委員、山川 敦子 委員、  
齋藤 光子 委員、安武 壽子 委員、佐伯 道郎 委員、  
西村 秀樹 委員、兄井 彰 委員、早淵 仁美 委員、  
藤井 雅人 委員、小森 貴一郎 委員、浦川 宣 委員、野口 修司 委員

<説明のため出席した事務局職員> 7名

奥田スポーツ推進部長、  
平山スポーツ推進課長、島袋スポーツ施設課長、的野スポーツ事業課長、  
ほか3名

<議題及び報告事項>

○ 議題

- (1) 福岡市スポーツ推進審議会 副会長の選任について
- (2) 計画策定の方向性等について

<協議要旨>

○ 開会

(事務局)

- ・本日の出席委員数は、全16名のうち、13名で、委員の過半数を超えているため、福岡市スポーツ推進審議会条例第7条の規定に基づき、本日の会議が成立することを報告する。

○ 議題 (1) 福岡市スポーツ推進審議会 副会長の選任について

(会長)

- ・副会長の退任に伴うもので、福岡市スポーツ推進審議会条例第6条により、委員の互選により選出するものである。特に意見がなければ、事務局から提案いただきたいと思うがどうか。

(各委員)

- ・意見等なし

(会 長)

- ・それでは事務局から提案をお願いします。

(事務局)

- ・本審議会委員の在任期間等を考慮し、安武委員を推薦させていただく。

(会 長)

- ・各委員よろしいか。

(各委員)

- ・了承

(会 長)

- ・それでは副会長に安武委員を選出することに決定する。

## ○ 議題（２）計画策定の方向性等について

(事務局)

- ・資料１、参考資料に基づき説明

(会 長)

- ・只今の説明を踏まえ、意見交換については論点を二つに分け、まず、資料１の４の基本的な考え方について、次に、資料１の５の計画の構成イメージについて、議論をお願いしたい。
- ・それでは、基本的な考え方に関して、６つの視点が挙げられているが、今後、具体的に計画を策定していく上で、踏まえるべき視点等について、意見がある委員は、発言をお願いします。

(委 員)

- ・大学でも、コロナ下の状況で、スポーツ関係の授業をどうするか苦慮している。「ポストコロナの視点を踏まえて」とあるが、具体的にどのような視点か。

(事務局)

- ・ポストコロナについては、これまでの感染対策や開催支援の取組みや、プロスポーツなどにおけるワクチンパッケージを活用した取組み、それらの情報発信などが考えられる。

(委員)

- ・スポーツを「みる」環境については、現地観戦だけではなく、SNSやスマートフォンなど、見方も多様化していると思う。スポーツを「みる」割合の増が、どう地域の活性化に繋がるのか。例えば、ソフトバンクホークスを見る子どもが増えれば、野球をする子どもが増えるという論理は成り立つと思うが、地域の活性化とスポーツを「みる」環境について、どのような展望を持っているか。

(事務局)

- ・「みる」がどういう風に「する」に繋がっていくのかは、難しい論点だと思うが、スポーツというコンテンツを生かしながら、地域のきずなづくりの施策に繋げていくという視点もあると思う。スポーツを「みる」環境について、SNSや動画配信など、アクセス方法が多様化する中、「みる」指標の取り方をどうするかは、国の状況を踏まえつつ工夫が必要だと思っている。

(会長)

- ・今の議論は非常に大切と考える。「する」、「みる」、「ささえる」の枠内での議論はあっても、「する」と「みる」、「する」と「ささえる」、「みる」と「ささえる」の連関の議論が欠けていた気がする。ぜひ継続的に議論させていただきたい。

(委員)

- ・ポストコロナを考えると、ソフトバンクホークスなど有名な試合に限らず、一般的な試合でも、オンラインやハイブリッド開催の導入ができると良いと思う。会場は密にならず、会場に来なくても試合を見ることができ、また、録画や配信を体育の授業に活用するなど、教育的な面でも良いと思う。また、eスポーツについては、当審議会のテーマになるのか教えていただきたい。

(事務局)

- ・eスポーツをスポーツとするかどうかは、国でも議論されている。市の計画の位置付けも、国の検討状況等を見守る必要があると思っているが、eスポーツは、スポーツという定義に入るか否かに関わらず、身体の状態や年齢に関わらず楽しめるコンテンツの一つと考えており、関係部局とも連携しながら、推進を図ってまいりたい。

(会長)

- ・委員はどのようなお考えか。

(委 員)

- ・心身の活性化という意味で、身体だけでなく精神の活性化も含めて考えると、パラスポーツや超高齢社会、スポーツを「みる」視点などから、広くスポーツと捉えても良いのではとも思う。ただ、スポーツ振興にマイナスに働いてはいけないとも思うので、市としてどうするかを整理していただければと思う。

(会 長)

- ・他に意見等あるか。

(委 員)

- ・eスポーツについては、研究者の間で意見が分かれている。スキーなどのスポーツをいわゆる道具を使った身体活動として考えれば、eスポーツもまたゲーム機などの道具を介した運動という解釈が成り立つ。以前、ウォーキングや散歩、体操をスポーツとは言わなかったが、今やそれらが人々の運動・スポーツの主流となっているように、スポーツの概念は時代とともに変わっていくと考える。今回の計画に入れるのは時期尚早だと思うが、碁やチェスもマインドスポーツというスポーツの一環としての歴史があることを考えると、今後、eスポーツもスポーツの一環として考えられていく可能性があるのではないか。

(会 長)

- ・今後の議論の課題にできればと思う。他に意見等あるか。

(委 員)

- ・部活動の地域移行について、市教育委員会と、中体連、校長会などで意見交換を行った。スポーツ庁が中心となって令和5年の移行を目指しているが、課題が多く、期間もない中、市としてどう進めたらいいか悩んでいる。地域に人材はいるのか、民間委託をするのか、中体連大会等をどうするのかなどわからないことも多い。また、競技力向上だけではなく、教育的指導も含まれており、継続して関わりたいと思っている先生もいる。教育委員会だけでなく、市民局スポーツ推進課、各競技団体、公民館などと連携しないとできないと考えており、いろいろな方の意見を聞かせていただきたい。

(会 長)

- ・子どものスポーツを推進していく上で、避けては通れない事柄だと思う。委員の所見で良いので、部活動の地域移行についての先生方の反応はどうだったか教えていただきたい。

(委員)

- ・市の中学校では、ほぼ全員が部活動顧問になっているが、大半は地域移行の話を知らないし、地域移行ができるという考えを持っていないのが実情と思う。

(会長)

- ・地域移行となっても、実態としては先生方が協力しないと成り立たない世界であるということだろう。

(委員)

- ・困っている先生がいるのも事実だと思う。半数以上は、地域移行しても何らかの形で関わりたいと思っているのではないか。

(委員)

- ・教員の人材育成をしている立場からすると、教員の希望者が減っている原因の一つに教員業務の大変さ（多忙と多岐）がある。教育だけでも大変な中、部活動指導もしないといけない状況で苦勞されている方もおり、働き方改革の面から部活動の地域移行は必要だと思う。地域で運動されている退職された先生方を活用するのも良いのではないか。また、教員が部活動に関わるか否かは、各先生の希望で選択できるようにし、業務時間外に関わる場合は手当支給や副業許可を行うなど、相応の対応（待遇）について検討して欲しい。

(会長)

- ・他に意見等ないか。

(委員)

- ・学校週5日制になる時も、学校機能のスリム化に伴う部活動の地域移行が目指されていたところがあり、まずは当面、土日は部活動をせずに、地域の子ども会とか、総合型地域スポーツクラブに子どもたちを受け入れてもらおうという議論があったがうまくいかず、以後もほぼ変わらぬ形で部活動が存続した。その後、外部指導者を入れるという話も、誰がやるのか、教育的な指導ができるのか、費用をどうするのかという議論になり、必ずしもうまくいっているとはいえないようだ。今回、教員の働き方改革という大きな外圧をうまく活用して部活動改革を進めていかないと、これまでと同様に部活動指導が先生方の無償ともいって良いような努力のみに頼るところに戻るのではないかと危惧している。

(会 長)

- ・的確な指摘で、長年議論されてきた非常に難しい問題だが、何らかの方向性を見つけ出して進めないと、子どものスポーツが成り立たなくなる側面もある。今後の議論の課題にさせていただければと思う。

(会 長)

- ・次に「5計画の構成イメージ」の、目標や施策の方向性等について、意見がある委員は発言いただきたい。

(委 員)

- ・親がスポーツをしていない子どもは、スポーツを「する」ということに実感が湧かないと思う。子どもには競技としてではなく、遊びを通じてスポーツに繋げていくやり方が良いと思う。大人も子どももできるニュースポーツを地域で実施すれば、スポーツに取り組むきっかけになるのではないか。

(会 長)

- ・どんなニュースポーツが考えられるか。

(委 員)

- ・あまりルールを設けずに、ボール一つでもできるようなものが良い。外でできるエアバドミントンのように、各地でイベント等開催されているものもあり、地域のスポーツ推進委員や、スポーツ協会の方との交流の中で、アイデアを出して始めていくのが良いと思う。

(会 長)

- ・今の意見に関して、意見等あるか。

(委 員)

- ・子ども向けのイベントでは、ゲーム性と達成感を感じることができるものが喜ばれる。体を動かす単純な遊びを、競争させるのではなく、何回でも体験できるようにして、また、達成感が感じられるようスタンプラリーにするなど工夫して実施している。子ども向けのイベントだが、小さい子どもは親に連れてきてもらう必要がある。親に対してイベント情報の広報、告知をしているが、毎年、同じようなメンバーが参加している。家庭の状況、形もそれぞれあるとは思いますが、親に情報を届け、浸透させるということは良いことだと思う。

(会 長)

- ・委員の意見から、子どものスポーツ実施について、浮かび上がってきたことが二点ある。一点目は、遊び感覚を取り入れることが重要ということ、二点目は、親を攻めることが一つの手段としてあり得るという提案と意見だったと思う。このことについて、何か他に意見等ないか。

(委 員)

- ・スポーツ推進委員の活動で、スポーツイベントを実施している。例えば、お手玉ビンゴというブルーシートに碁盤目のように縦横の線を引き、その中にお手玉を投げて点数を競うニュースポーツがあるのだが、投げる場所を大人は遠くに、子どもは近くに設定することで、どの年代でも楽しめるようになっている。親子で参加し、身体を動かして楽しむことで、休日の家族時間の充実や、運動によってぐっすりとお休みといった様々な効果が見込まれると思う。親子で参加できるスポーツイベントを増やしていくことは、とても大事なことだと感じている。

(会 長)

- ・この件に関して、他に意見等あるか。

(委 員)

- ・自宅から離れた場所でのイベントだと、参加の意思はあっても、遠いので行くことが億劫で行かないということもある。こういったことに対応するには、人が集まる場所に出向いて開催するという解決方法しかないのかなと思う。例えば、学校や子ども会に行くとか、人材を含めて、どう実施できるのか。それを年に何回かやるのかなど、教えていただきたい。

(委 員)

- ・市の女性スポーツ活動団体で、スポーツフェスタというイベントを開催している。新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前は、市民体育館で、バレー、バドミントン、卓球等の競技体験や、体力測定など、親子一緒に参加できる無料のイベントを年に1回開催してきた。市民体育館を使った場合は、近隣の方が来ているという状況だと思う。会場を変更しながら、各地域の身近な場所にも会場ができると良い。この活動にやりがいを感じており、こういう機会がもっと増えたら良いと思う。

(会 長)

- ・この議論はここまでとさせていただく。次に、目標2の「みる」の議論に移行させていただきたい。先ほどの振り返りでも紹介があったとおり、観戦機会の評価は高まったが、必ずしも、継続的に見る活動に繋がっていないという指摘があったことも踏まえ、「みる」ということに関して、ご意見いただきたい。

(委 員)

- ・プロスポーツを見る環境が、現地観戦だけではなく、動画配信など多様化しており、DAZN（ダゾーン）という定額制の動画配信サービスでは、世界各国の様々なスポーツを見ることができるようになっている。数值的に「みる」割合が減っているのは、こういったものも関係していると思っているが、スポーツを「みる」手段は今後もっと増えていくのではないか。こういった数値を把握することが今後の課題になると思う。

(会 長)

- ・今の話に尽きるのではないか。「みる」形態も変化しているということだと思う。必ずしも現場で見ることだけが、「みる」ではないという、意識の改革をする必要があるのかもしれない。
- ・他に意見等ないか。

(各委員)

- ・なし

(会 長)

- ・最後に、目標3「ささえる」について、先ほど、子どものスポーツに関する先生方との関わりについて議論があったが、他に意見等あればお願いする。

(各委員)

- ・なし

(委 員)

- ・市で開催される世界水泳選手権大会について、市の女性スポーツ活動団体にもボランティアの要請が来ているが、4日以上続けるのボランティアという条件となっている。対象、従事内容に応じた取り組みやすい募集方法があるのではないかと思う。担当ではないとは思いますが、要望としてお伝えしておく。



(事務局)

- ・スポーツを推進する上で、様々な方の支えや連携が必要だと考えている。ボランティアやイベントへの参加についても、地域や民間と連携しやすいやり方、情報発信についても、相手の立場に立った参加しやすいやり方が、これからのデジタル化が進んでいく中でより大切になってくると考えている。

(会 長)

- ・他に意見等ないか。

(委 員)

- ・部活動の地域移行の話を、スポーツ指導員の指導者研修会の中で聞いた。現場の先生にいつ伝えて、その後、地域移行の担い手として誰を対象に、どう話を進めていくのか確認したい。

(事務局)

- ・所管が教育委員会で詳細を把握していないが、スポーツ施策を推進する立場としては、働き方改革、負担軽減という視点は重要だが、それがきっかけでスポーツの衰退や実施者が減るようなことがあってはならないと考えている。地域移行において、様々な議論があっている段階と思うが、子どもたちがスポーツをやりやすい環境という視点で、意見を申し上げていきたい。

(会 長)

- ・ただ地域移行するのではなく、民間活用も含めて、いろいろな選択肢を検討していくべきと思う。全体を通して他に意見等ないか。

(委 員)

- ・スケジュールについて、国の第3期スポーツ基本計画の内容を反映していくには時間が短いと思うが大丈夫か。

(事務局)

- ・短期の策定スケジュールだが、第3期スポーツ基本計画については、12月中に中間報告案が提示される予定となっている。早めに情報収集しながら、1月の段階では、この中間報告案を踏まえた形での市の案をお示ししたいと考えている。

(委 員)

- ・大変だと思うがよろしく願います。

(会 長)

- ・他に意見等ないか。

(委 員)

- ・公民館として、高齢者の運動機会を増やすため、「よかトレ実践ステーション」に登録して、月2回の体操教室を行っているが、あるサークルでは、会員10数名のうち3名が転んで骨折し、参加できない状況と聞いた。高齢者の体力保持、健康寿命の確保ということを考えると、身体を動かす機会を多く設ける必要があると思う。自治協議会、体育振興会、老人クラブなどで、ウォーキング等が実施されているが、参加人数も限られており、高齢者のスポーツをする機会についても、計画の中にうまく取り入れてもらえたら良い。

(事務局)

- ・今回の計画では、子どもから高齢者まで、ライフステージに応じた施策を考えていく必要があり、障がいがある方、性的マイノリティの方など含めて、あらゆる方という視点で考えたい。公民館では、日頃から子ども向け、高齢者向けに限らず、様々な事業の実施や、コロナ下で集まるのが難しい中、公民館主導で、オンラインと組み合わせた事業を開催するなど、様々な活動をしていただいております。コロナ下での運動不足というところも言われており、高齢者の視点も大切にしながら考えていく。

(会 長)

- ・他に意見等ないか。

(委 員)

- ・今、高齢者の視点の話があったが、健康づくりの視点もぜひ入れていただきたい。どのライフステージでも楽しむことは大事だが、子どもは遊びに、中高年、特に高齢者は、楽しみながら健康づくりをすることにスポーツの意義がある。スポーツの振興に、「健康づくり」の観点を忘れずに入れていただきたいと思う。

(会 長)

- ・他に意見等ないか。

(各委員)

- ・なし

(会 長)

- ・意見も出揃ったようである。大変活発な議論、意見に感謝する。  
これをもって本日の審議会を終了する。

○ 会議終了